

# 富山工業生が415号線地下道など見学

県建設業協会

## 現場監督の魅力など伝える

校土木工学科の2年生34名が整備中の地下道や未舗装の高架橋などの工程や現場監督の仕事内容などに理解を深めた。

同協会は、県内の建設関係学科生徒を対象として、普段立ち入る機会が少ない建設現場を見学することにより、高校生に社会資本整備の必要性や建設業の魅力を認識してもらい、若手の人材確保に繋げることを目的に、平成3年から「高校生の建設現場見学会」を実施している。

同現場の見学はスター総合建設の協力の下で実施され、同社の田屋輝雄総務部長、三浦佳男建築工事長、増田憲彦工事課長らが解説と案内を担当した。

冒頭、増田工事課長が工事の概要、ポイント等の内容、週休2日制モデ

ル工事、複数の会社と連携した工事であることなどを紹介した。

引き続き、同校OBの豊岡洸希氏が、「現場監督という仕事は、自分の考えを相手に分かり易く伝えることが重要。そのため、新聞や本などを読んだ方がいい。現場監督は大変だが、やりがいもある。この仕事の魅力は自分が携わった仕事が多くの人に役立つこと。ぜひ、皆さんもやってみて欲しい」と話した。

工事概要などの説明後、生徒たちは実際の地下道入口の現場に移動し、足場が組んである状態で、普段は見ることができない整備中の地下道内部を見学した。工事の詳しい解説を行った増田工事課長が、「色んな足場の組み立て方や選定、図面を書くなど、現場監督の仕

事は多岐に渡るが、それらの作業を考えてやること出来る楽しい仕事だと思ふ」と語った。

今回の現場は、富山市東富山寿町地内の国道415号線と踏切に沿った南北195m・東西95mの規模で行われている。設計は富山県富山土木センター、県土木部営繕課、監理はシバタ建築設計事務所、施工はスター総合建設で、工期は来年3月25日まで。

続いて、生徒たちは国道415号線に長さ250mで架かる整備中の高架橋を見学し、地下道との関係性や立地状況を俯瞰した視点から確認した。見学会の最後に、生徒の代表の田山涼さんが、「ひとつひとつの小さな作業が工事の完成に重要なことが分かった。今回

踏まえ、将来現場で活用できるように、今から学校での勉強に励みたい」と謝辞を述べた。

見学会に参加した同校の中野来郁さんは「こん

なに大きくて長い道路なので実際の道路事情や合流地点などを知れたことで、ミラコンで研究している逆走防止に使えるところ」と感想を話した。

なお当日は、富山市飯野の「国道8号豊田新屋立体事業」、同市磯部の「神通川右岸堤防整備事業」の工事現場も見学した。



増田所長

地下道内部の解説



増田所長

豊岡氏

概要説明



豊岡氏

集合写真